Kandai Style

2018.11 Vol.471
関西大学通信

第41回
関西大学統一学園祭

2018年11月1日(木)～4日(日)

第41回関西大学統一学園祭

今年のテーマ

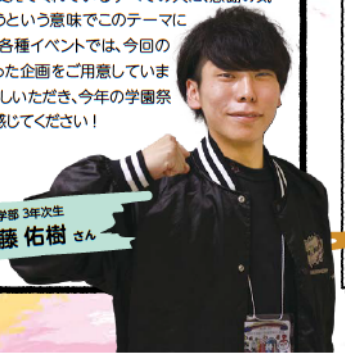
“Join us!!!”

～あなたが居て　はじまる学園祭～

「第41回関西大学統一学園祭」を4ページにわたって特集します。実行委員長にインタビューし、学園祭にかける思いや意気込み、学部ならではの見どころを紹介します。

常任委員会

今年の学園祭のテーマは、「Join us!!!～あなたが居てはじまる学園祭～」です。毎年当たり前に開催している学園祭ですが、見えないところでたくさんの人に支えられて開催することができています。模擬店を出店してくれる関大生、学園祭に協賛してくださる企業の皆さん、そして学園祭に来てくださる来場者の皆さん。そんな学園祭を支えてくれているすべての人に、感謝の気持ちを持とうという意味でこのテーマに決めました。各種イベントでは、今回のテーマに沿った企画をご用意しています。ぜひお越しいただき、今年の学園祭の温かみを感じてください！



経済学部 3年次生
佐藤 佑樹 さん

統一企画構成委員会

統一企画構成委員会では、ライブや公演などの段取りおよび構成を行っています。委員長になってから、しんどいなと思うこともありますが、それが苦だとは思っていません。しんどいことも楽しみに変えてがんばっています。楽しみやしんどさを乗り越えるからこそ、学園祭が良いものになると思っています。学園祭は、つくる側だけでは絶対に開催できません。模擬店を出店してくれる学生や、教職員の方々、そして見に来てくださる来場者の皆さんがいて初めて成り立ちます。学園祭に携わってくださる皆さんに感謝して、当日は盛り上げていきたいと思います！

経済学部 3年次生
薮田 真平 さん

サークル祭実行委員会

サークル祭実行委員は、体育会、文化会、学術研究会、単独パート、同好会・準登録団体の5パートから構成されています。5パートが共同で何かを企画するわけではありませんが、各団体が模擬店出店や後夜祭への出演など、さまざまなイベントを実施しています。私は、関西大学放送研究会（KBC）に所属していて、学園祭期間中は図書館前で公開生放送や後夜祭での司会進行を行います。公開生放送では、今年の学園祭のコンセプトにもあるように、リスナーを巻き込んだ企画を考えていますのでご期待ください！各サークルの活気づいた盛り上がりにも注目してほしいです。

文学部 3年次生
天野 将吾 さん

法学部祭典実行委員会

昨年11月に先輩たちが引退して私たちが引っ張っていく立場になったとき、新しく入ってくる1年次生誰もが楽しめるような雰囲気を、自分でつくっていきたいと思い委員長に立候補しました。委員長になってからは、1年次生に自分から積極的に話し掛けるよう心掛けました。ローフェスティバルというイベントを定期的に開催し、運動会やボウリング大会などをすることで、法祭全員の仲を深められるような仕組み作りを行ってきました。当日は、殺人ピエロが繰り出すお化け屋敷やあすかの庭ステージ企画などにぜひお越しください！

法学部 2年次生
杉浦 駿太 さん

文学部祭典実行委員会

学園祭実行委員になった1年次に、常任委員長の下で活動する機会にも恵まれて、統一学園祭を幅広い角度から見ることができたのが良い経験になりました。当時の常任委員長のどしっとした雰囲気に憧れて、文祭の委員長に立候補。文祭のテーマ“相手の存在を大切にする”の下、68人全員がしんどい時はお互いに助け合い、楽しむ時はみんなで思い切り楽しんで準備してきました。見どころは、昨年の来場者の子ども向けイベントが少ないのではという声を受けて、“不思議の国のアリス”をモチーフにメルヘンな世界観のある、子どもから大人まで楽しめる教室企画です。

文学部 2年次生
中川 雄太 さん

経済学部学園祭実行委員会

大学に入学した頃は、授業とアルバイトの日々を繰り返していました。しかし、そんな毎日に物足りなさを感じ、勉強以外で目標を持てる何かがしたいと思い学園祭実行委員に入りました。委員長になり、実行委員全員の意識を一つにまとめる大変さを知りました。そんな中でも、できる限り意識を一つの方向へ持っていくために、物事を決める際はみんなで決めるように工夫しました。経祭実行委員として最初で最後の学園祭。この学園祭にかける思いは人一倍あります。当日は、学舎の1フロアを貸し切った「謎解き脱出ゲーム」を企画しています。お子さんも一緒に楽しめるイベントですので、奮ってご参加ください！

経済学部 2年次生
岡 峻也 さん

商学部祭実行委員会

実行委員は1・2年次生がするのですが、商祭は3年次生が補佐として5人残ります。わたしは信頼する先輩に選んでもらったので、がんばってやり抜きたいという思いと、商祭として携わる最後の学園祭なので何としても成功させたいという気持ちです。商祭の今年のテーマ"笑祭"の下、笑いの絶えない学園祭にできたらと、昨年からイベントを多く企画し、普段から楽しく参加できるようにしました。そして、72人みんなの背中を押しながら一緒に準備をしてきました。どの企画もぜひ見てほしいですが、ファッションショーがイチオシです。

商学部 3年次生
松田 優吾 さん

社会学部祭実行委員会

社祭のみんなが大好きで委員長に立候補しました。昨年度の社祭のテーマ"誰よりも笑え"を引き継いでさらにパワーアップし、みんなを楽しませて一緒にがんばっていくことが、統一学園祭の成功と来場者の皆さんの満足につながると考えてきました。今年は、「Kansai University Collection」と題し、全学部からモデルを集めてショーの企画・演出から洋服の製作などのすべてを手掛けています。また、ステージ企画も本番を迎えるまでの間、毎日のように真剣に練習してきました。学園祭の4日間はみんなが一番生き生きしているとき。ぜひ、最高のパフォーマンスを見てください！

社会学部 2年次生
塩川 啓矢 さん

政策創造学部祭典実行委員会

政祭のテーマは"笑心笑心(にこにこ)にっこりにぱりんちょ政祭"です。"笑"には楽しい、面白い、"心"には思いやり、感情という意味があります。78人もいる政祭なので、自分の考えを押し付けてもまとまらないですし、みんなのことを考えて行動してほしいという思いを込めました。統一学園祭の歴史は古く、今まで開催することができたのは歴代の実行委員長のおかげだと思います。統一学園祭は年々レベルアップしているので、日本全国に「関大の統一学園祭はすごい」と広がり、たくさんの人に来てもらえるようになったらうれしいです。見どころは「モテ男選手権」。出場者は、特技や大喜利を披露するので、ぜひ、あすかの庭にお集まりください。

政策創造学部 2年次生
荻野 湧真 さん

外国語学部祭典実行委員会

外祭の実行委員長には自ら希望してなりました。外祭として新しく入ってくる1年次生には、準備段階から楽しんで取り組んでほしいと思い、良い雰囲気づくりと一人一人にまめに声掛けしサポートするよう努めてきました。春から外祭として活動するうちに、「祭実になってよかった」という声をもらえるようになり、全員にそう思ってもらえるようがんばってきました。今年は、かわいい1年次生と個性的な3年次生がお送りする、笑いあり涙ありの友情コメディや、留学生を招いたMC企画など、外国語学部の特色を生かした企画を考えました。時間をかけて準備し、練習を積み重ねてきたので、皆さんに楽しんでもらえたらこれほどうれしいことはありません。

外国語学部 3年次生
平本 実里 さん

人間健康学部祭典実行委員会

昨年、人祭として初めて統一学園祭に参加しましたが、普段は堺キャンパスにある人間健康学部で活動しているため、千里山キャンパスの雰囲気についていくことに必死でした。来場者の多さに圧倒され、学園祭の規模の大きさに驚いたのを覚えています。委員長になり、人の意見を聞く大切さや全員の意見をまとめる大変さに苦戦しましたが、より良い学園祭にしようと日々奮闘してきました。人祭も、人間健康学部独自の体を動かしたゲームイベントやステージ企画などで盛り上げていきますので、ぜひご来場ください！

人間健康学部 2年次生
大園 大稀 さん

総合情報学部祭典実行委員会

来場者の皆さんに楽しんでもらえることが一番だと思います。そのために、77人の情祭全員が楽しまないと、お客さまが楽しめないのではないか、実行委員長として、日々どうしたら楽しいかを考え、熱意をもって一人一人に伝えてきました。また、情祭が一致団結してチーム力を高めることができるように、旅行やバーベキューなどのイベントを開催しました。第41回のテーマ"Join us!!!"の下、情祭のカラーをうまくなじませることができたらと思います。今年も、お化け屋敷などのステージ企画があり、去年とはひとあじ違うものを作り上げたので、ぜひ楽しんでいってください。

総合情報学部 2年次生
田村 真也 さん

社会安全学部祭典実行委員会

安祭として初めて関わった第40回統一学園祭を経験し、「祭実を通して関大生活をもっと楽しみたい」と感じて委員長に立候補しました。41回目の今年は、66人の安祭が家族のように助け合い、お互いの意見を受け入れて学園祭を作り上げていきたいという思いから、"全員家族"のテーマの下、準備を進めてきました。時にはしんどいこともありましたが、それさえ楽しく感じることができ、関大の学園祭はいいなと思います。来場者の皆さんに、楽しく面白く学んでもらえる防災関連のイベントを企画しました。楽しんでいただけたらうれしいです。

社会安全学部 2年次生
入江 俊輔 さん

理工系学部祭実行委員会

実行委員になったきっかけは、昔からボランティア活動が好きで、学園祭を支える立場から盛り上げたいと思ったからです。工祭は、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の3学部で構成されているため、他学部とも交流が図れて、絆を深められるのが強みです。理工系は、実習や実験が多いため、なかなか集まれる機会が少ないですが、短時間で効率の良い会議ができるように心掛けています。当日は、理工系ならではの子どもを対象とした実験など、皆さんが安全に楽しめるイベントを企画しています。ぜひ、お立ち寄りください！

環境都市工学部 2年次生
生沼 陸 さん

働く関人 kandaijin

製造業／営業

住電日立ケーブル株式会社

本屋敷 孟さん

金光八尾高等学校出身
2016年法学部卒業

大学と学生をつなぐ経験から「広い視野で柔軟に判断する」という強みを身に付けました。

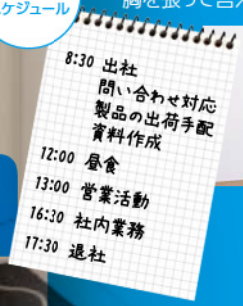
大阪中之島にある住電日立ケーブル株式会社に勤務する本屋敷孟さんは、今年で入社3年目になります。大阪電販部に在籍し、建設用電線やケーブルを商社などに販売。設備工事会社や電気工事店に納入する業務に従事しています。諸先輩が築いてきたお客さまとの信頼関係を壊さないためにも、お客さまのニーズを詳しく聞き取り、これまで以上のサービスを提供できるよう努力しているそうです。

そんな本屋敷さんは、大学3年次に統一学園祭常任委員長を経験しています。1年次から学園祭の運営に興味がありステージ担当を、2年次には法学部の実行委員長を務めました。その後は引退するつもりでしたが、統一学園祭常任委員長に名乗りを上げた知人を見て、「人に任せるなら自分がする」と思い立候補。学園祭を愛する気持ちは誰にも負けないという熱意が認められて見事選ばれました。

数十名で構成される常任委員会のトップである委員長の主な仕事は、大学と学生間の折衝役、常任委員会の取りまとめ、そして学園祭の運営管理です。安全衛生面、人権的見地などから、企画内容が大学に却下される場合があっても、できる限り学生の希望をくみ取り、他の方法がないかを探して大学を説得するように努めたそうです。実行委員の人数が多く、意識統一に苦労したという本屋敷さん。連絡の行き違いで大学と学生の間でうまくいかないことが起こった時でも、一方の言い分だけで判断するのではなく、他方からもきちんと言い分を聞くことが大切だと学びました。その時から、先入観にとらわれず、公平な立場で総合的に判断するようにしているそうです。それは現在の仕事でも役立っていると言います。「一生付き合える仲間と出会えたことが財産」と言う本屋敷さんは、今でも学園祭には当時の仲間で集まり語り合うのだとか。

学生をサポートするという役目が性に合った本屋敷さんは、人の生活を支える仕事に携わりたいと考えるようになり、生活に根差したインフラ関連の企業を志望して、同社に入社を決めました。「学生時代に、多くの人と関わり、さまざまな意見を聞いて柔軟な考え方ができるようになりました。その経験がこの会社への入社につながり、今の自分をつくったといっても過言ではありません。学生時代は、将来の自分をつくる大切な時間なので、これをやったと胸を張って言えるものに打ち込んでください」と締めくくりました。

ある1日のスケジュール



必須アイテムは、手帳と製品ガイドブック、電卓と携帯電話。製品説明には、製品ガイドブックは手放せない。

Sales Person

VIVA!

学び場

経済学部　経済学科

「経済学演習4」

佐々木保幸 教授

流通・マーケティングや地域活性化・まちづくりを学び、社会に還元していく。

ゼミで学んだ全てのことが、社会人になった時に役立つと実感できます。

流通政策を専門とする佐々木保幸教授の「経済学演習」は、「流通・商業・マーケティング・まちづくり」について研究するゼミです。2年次の基礎学習に始まり、3年次にはフィールドワークによる調査・研究、4年次には各自が選んだテーマに沿って卒業論文を作成します。フィールドワークは、20人の学生が5つのグループに分かれ、「流通・マーケティング」や「地域活性化・まちづくり」のテーマについて実地調査を行います。ゼミでは、「研究したことが社会にどう還元されるかに目を向け、社会性を持ちながら研究を進めることをモットーにしています」と佐々木教授は話します。実績として、彦根市の観光地を調査した「地域経済に対する『ゆるキャラ』の効果」、商店街が主催する「バル」イベントを調べた「『バル』等最近の地域商業活性化策の効果」などがあります。ゼミでは、調査結果を学外で披露するところまでを課題とし、調査結果は班ごとにまとめ「日本学生経済ゼミナール大会」や「関西ブロック大会」で必ず発表します。佐々木教授は、卒業論文で特に「地域活性化・まちづくり」をテーマに選んだゼミ生に、フィールドワークを行うようアドバイスをしています。

「発言することが大事」と言う佐々木教授は、学生の発表内容に応じて質問したり、ヒントを与えたりすることで、ゼミ全体の自発的な発言を促します。発言が増えることで、ゼミ全体のコミュニケーション力が高まるとともに、就職活動や社会生活にも役立つそうです。また、コミュニケーション力向上の一環として、学年ごとのゼミ合宿も実施しています。

ゼミを通して学生に身に付けてほしいことは二つ。一つ目は、仲間意識を大切にすること。人は社会の中で常に集団で行動するため、社会に出てもグループ意識を重視してほしいのだとか。二つ目は、社会的に弱い部分に目を向けるように意識すること。佐々木教授の研究テーマの一つ「大型店の出店規制をどうするか」は、「地域の商店街をどう存続させるか」と同じ意味で、社会的に弱い部分に目を向けることでもあります。

流通やマーケティング・地域活性化は、どんな職業にも関わりがあるため、卒業生の多くが、マーケティングの考え方や方法を、社会人生活で生かすことができていると話すそうです。企業は利益だけを追求するのではなく、社会的責任を果たし地域と密接に関わることが求められる現代、ゼミで学んだマーケティングや地域との関わり方を、社会人として役立てることができるのが、佐々木ゼミの魅力です。

平えりささん（4年次生）

マーケティングに興味があったことと、全国大会で成果を発表できることから、このゼミを選びました。ゼミ内での役割が決まっているため、責任感と仲間意識が強くなりました。卒業後は社会人として、ゼミでの学習を社会に役立てていきたいです。

井澤健瑠さん（4年次生）

経済学部では数少ないマーケティングを学べるゼミであったことから選びました。就職活動ではマーケティングの知識を活用し、ゼミ内で発表の機会が多いことで培われた度胸を生かして、外資系の不動産会社に就職が決まりました。

経済学部
佐々木保幸 教授

経済を支える流通という分野や、さまざまな取り組みの発想となるマーケティングについて学びたい人は、ぜひ参加してください。ゼミは勉強だけでなく、2年半の共同生活を送る場でもあります。一つの共同体の中で、自分の役割を果たし、周囲とのコミュニケーションをとりながら有意義な学生生活を送りましょう。

左官業と日本の土壁を見直した研究者、故・山田幸一教授

―桂離宮の修理などに貢献―

故・山田幸一教授

創立130年余りの関西大学には、多くのユニークな教員が活躍し、今もその伝統は息づいています。工学部に在籍した故山田幸一教授(1925年−1992年)もその一人。山田教授は日本で初めて、左官業を研究対象とし土壁の技術と歴史を学問としてまとめました。その遺産は現在も本学に脈々と流れ、これに注目したインドネシアの青年が「日本の伝統的な建築技術を学ぶにはここしかない」と留学してきたほどです。

日本の土壁の美しさ

山田教授は自身も京都で名のある左官業の家に生まれ、建設会社にも勤務したことのある異色の研究者でした。日本の伝統建築の中でも、あまり研究対象になっていなかった「土壁と左官」に着目し、西欧の建築技術との差異を研究しました。その結果、竹を格子状に編んだもの(木舞)を下地として両面から土を塗る木舞壁は、土の耐火性や遮断性をうまく活用したもので、素材の美を生かした世界でも最高レベルの壁と結論づけたのです。

学生を指導する佐藤さん(左)と西澤教授(右端)

「わび・さび」の下に真っ赤な壁

山田教授の研究成果は国も認めるところとなり、「昭和の大修理」といわれる桂離宮の解体修理で宮内庁から土壁に関する技術指導を要請され、龍安寺の土塀修復なども任されました。

桂離宮では新発見もありました。土壁の色です。修理前は一見して黒ずんだ色調で、いかにも日本的な「わび・さび」の典型と見られていました。しかし山田教授の研究で、壁の黒い表面の下に、鮮やかで真っ赤な壁土が現れたのです。「離宮御殿の壁が当初、すべて赤一色であった状態を想像してみよう」と、山田教授はやや興奮気味に学内誌に書いています。

バグスさん(中央)の壁塗りを指導する佐藤さん(右)と西澤教授

90歳超えの名人と西澤教授

山田教授の研究を側面で支えた人がいます。京都の左官業、佐藤治男さんで、「全国文化財壁技術保存会」の元会長です。京都府が認定した「現代の名工」の一人でもあり、90の坂を越えながら今も後進を指導する、文字通り日本の左官業界の第一人者です。

佐藤さんは生前の山田教授の研究をバックアップし、さまざまな助言を行いました。その関係は今も続きます。山田教授と同様の研究を続ける関西大学環境都市工学部の西澤英和教授の研究室で学生たちを指導しているのです。

西澤教授の研究対象は現代建築を支える鉄骨構造学や耐震工学から歴史的建造物の保存伝統的な建築技術の研究まで幅広く、国の重要文化財である本願寺御影堂や清水寺三重塔などを修復保存した実績があります。その第一歩として竹を縦横に組んで壁土を塗りこんでいく伝統的で本格的な左官の作業を学生にトレーニングしているのは、「全国の大学の建築学科でもこの研究室だけ」と佐藤さんは言います。

インドネシアとの接点

二人の指導を受ける学生が今春、インドネシアから一人やって来ました。ウィチャクソノ バグスさん(理工学研究科 博士課程前期課程1年次生)です。大津波で甚大な被害を受けたアチェの近くの出身です。彼の故国にも日本と同じような木造建築や土壁作りの伝統があります。同じ地震国の日本の伝統建築を学ぶことで、故国のこれからの防災に役立つのではないか、と西澤教授の研究室を頼って来たそうです。日本人学生に混じって、自分の足で壁土をこねることから始める原点からの研究を続けています。

今月のシンクアクトさんくん
関大生の友の輪

総合情報学部　3年次生

西田 匡孝さん

相手の意見を柔軟に取り入れながら、自分の個性を出していきたい。

2019年4月に創設25周年を迎える総合情報学部。その特設ウェブサイトの制作を担当するのが、西田匡孝さんです。6月まで関西大学総合情報学部祭典実行委員会に所属し、高槻キャンパス祭と統一学園祭のウェブサイトも作成しました。

幼い頃から、絵を描いたり、物を作ったりするのが好きだった西田さん。高校時代に先生の勧めで学校行事のパンフレットや卒業アルバムの表紙を制作する中で、デザインの楽しさを知り、将来は好きなことを仕事にしたいと考え、進学先を探しました。そこで、メディアやコンピューターの知識を習得しながら、4年間さまざまなソフトを自由に使用でき、グラフィックデザインの実習もある、同学部を選びました。

西田さんが就職を考えている企業では、ポートフォリオ（作品集）が実力をアピールする資料になると考え、スポーツクラブや塾のウェブサイトやロゴなど、多くの作品を制作。学外の知人やSNSを通して仕事を募るという営業活動も自ら考え行動しました。制作する上で重要なのは、「ユーザーが簡単に操作できる使いやすいデザインであるということ」と西田さんは言います。さまざまなデザイン制作の依頼を受けるようになったことで、ウェブサイトを研究し、デザインの意味やボタンの位置を考えるようになり、「自分の目線だけでなく、幅広い見方で制作できるようになってきたと思います」と西田さんは話します。クライアントとのやりとりでは、漠然とした要望を具体化することに苦労しましたが、「クライアントに喜んでもらえるのが一番うれしい。相手の意見を聞くことで、今まで気付かなかったアイデアや改善点を発見できたのは、大きな糧となっています」と笑顔がこぼれます。

一人で制作する中で気付いたのは、「社会にでるとたくさんの人と関わりながら仕事に取り組む機会が多いということ。多くの人とコミュニケーションを取りながら、一つの作品を完成する力を身に付けたいと考え、名取教授ゼミを選びました」と西田さん。ウェブサイト制作のプログラミング班に入り、データ班が集めてきた情報を共有し、協力しながら一つのものを作り上げていく作業に魅力を感じるとともに、その難しさも知りました。

西田さんは、いろいろな意見を取り入れて作品を制作しようとしましたが、全てを受け入れるとオリジナリティーがなくなってしまうため、自分と相手のアイデアを調和させて一つの作品を作ることを心掛けています。「自分の信念を持ちつつ、相手の意見も柔軟に取り入れることができるような人になりたい」と語る、西田さんの今後の活躍に期待が膨らみます。

西田さんが制作した「総合情報学部 創設25周年 特設サイト」

次回は、西田さんからのご紹介で髙谷佳那さん（総情3）が登場。お楽しみに！

Masataka Nishida

Faculties/Graduate Schools Topics & Message

学部・研究科トピックス

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、
トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

法学部／法学研究科

学問の熱い秋を楽しみませんか

学問の秋の恒例行事となった法学部政治学系ゼミ研究報告会が11月21日(水)の午後に開催されます。7回目となる今年の会場は、総合図書館 ラーニング・コモンズ ワークショップ・エリアで、例年にも増して、双方向的な、熱気あふれる議論がたたかわされることと期待しています。政治学の幅広さと深みを表すように、発表される研究成果は多彩で、他学部生も含む聴衆からの鋭い質問が毎年会場を沸かせています。学問の熱い秋をともに楽しみませんか。

（森本哲郎教授）

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

日本語教師養成講座

文学部では日本語教師養成講座を開設しています。2013年度から開設したもので、今までに計47人の修了者を送り出しました。修了生には早速海外で日本語教師として活躍している人もいます。授業ではTAや模擬授業、実習プログラムなど、実践的な活動を通して日本語教育への理解を深めます。どの専修に所属していても受講できますので、各専修で専門科目を学びながら、文学部の学び全体を有機的に結び付け、日本と他地域の言語・社会・文化への理解を深めてもらうことを期待しています。

（森勇太准教授）

経済学部／経済学研究科

GoLDプログラム（上海・復旦大学）を開催

8月10日～17日、中国にて短期留学(GoLD)プログラムを実施しました。今年度は33人の学生が参加し、復旦大学や上海コンテナ港をはじめ、ジェトロ、三菱UFJ銀行、日世、明治製菓、帝人、上海汽車等の現地事務所や工場を訪問し、参加学生は中国経済の実際を学ぶことができました。

（副学部長　佐々木保幸教授）

政策創造学部／ガバナンス研究科

タイ（パンヤピワット経営大学）での海外研修

9月3日～9日まで、アジアの経済拠点の一つであるタイで、海外研修を実施しました。本研修では、ASEANの政治・経済などについて英語で学ぶだけでなく、タイの文化施設や企業への訪問も行うなどさまざまなプログラムを実施しました。

（学生主任　五十嵐元道准教授）

外国語学部／外国語教育学研究科

Study Abroadに向けてラストスパート

秋学期になると学園祭やさまざまな行事で教師も学生も忙しいですね。外国語学部の1年次生は翌年のStudy Abroad出発に向けての準備が佳境に入ってきます。SAの希望先は秋口にはほぼ決定していますが、実際にSAに出発するためには、主専攻言語のスキル系科目の単位取得、SA説明会への出席、必要書類の期限内提出等、外国語の運用能力だけでなく基本的な自己管理能力が厳しく求められます。SAに向けての準備は異文化体験の基盤となるジェネリックスキルを鍛える場にもなっています。

（平嶋里同教授）

人間健康学部／人間健康研究科

プロフェッショナルドクター養成

今年度、人間健康研究科博士課程後期課程は完成年度を迎えます。現在社会人が13人在籍しており、設置時の目標を大きく上回っています。多くの院生は、社会での経験を基に問題解決型の研究に取り組んでおり、関西大学の学是である「学の実化」を実践しています。このように社会人を対象としたプロフェッショナルドクター（高度専門職業博士）の養成は、これからの成熟社会における大学院の在り方の一つのモデルとなるでしょう。

（杉本厚夫教授）

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

慣れの怖さと安全意識

11月になり1年次生は入学したての初々しさはなくなり、良い意味で関大生になったかと思います。2、3年次生は専門科目や実験実習が多く大変だと思いますが、学習の習慣を身に付けてしまえば何とかなるものです。4年次生は研究室生活にもずいぶん慣れて専門用語を使いこなし、実験も手際良くできるようになった頃かと思いますが、実験・研究ではこの「慣れによる慢心」に気を付けなければなりません。実験を始めた頃は、緊張感を持って実験に取り組んでいますが、慣れてくると作業が雑になったり、効率化のつもりで手順を省いたりすると、それまで丁寧にやっていたからこそうまくいっていた実験が失敗し、最悪の場合は事故・けがにつながります。

さて、6月の大阪北部を震源とする大きな地震は比較的新しい記憶でしょう。また10月末には防災啓発行事として、関大防災Day2018が開催されました。皆さん、地震避難訓練や防災のイベントに参加したと思いますので、防災の意識は高いでしょう。自然災害はいつ起きてもおかしくなく、未然に防ぐことは難しいですが、少しでも被害を抑えることはできます。理工系の3学部では、研究室での危険物の保有量の削減や転倒防止を見直し・推進していたことにより、6月に起こった地震による薬品の破損による二次被害はありませんでした。しかし、いくら設備が整っていても普段から気を付けていないと、有効に利用することはできません。使用した薬品や道具はすぐに棚に戻すなど「整理整頓」を徹底することは、災害が起きた時の二次被害を防ぐことになります。慣れてきた今の時期だからこそ、安全への意識を高め、防げる二次被害をなくしましょう。

（化学生命工学部　梅田堅進教授）

商学部／商学研究科

成長するBLSP

BLSP（ビジネスリーダー特別プログラム）では、2年前から、海外ワークショップをシンガポールで実施しています。シンガポールは、中華系・マレー系・インド系の人々が共生するダイナミックな国際都市です。今年は、47人の学生が、春学期に調査・研究した内容を、提携先の企業や大学で発表しました。さらに、情報サービス会社や旅行会社などを訪問し、社員と意見交換し、国際ビジネスの実際にも触れました。これらの経験を通して、学生たちは英語力だけでなく、人間的にも大きく成長しました。

（中邑光男教授）

社会学部／社会学研究科

水俣病資料館サテライト写真展@関大

水俣病は高度成長期の日本社会を揺るがした産業公害としてよく知られています。しかし、水俣病がもたらした地域社会への影響の実態や2008年に水俣市が環境モデル都市の一つに選ばれたことはあまり知られていません。そこで、12月10日（月）から8日間、社会学部第3学舎2階のギャラリーゾーンにて、水俣市立水俣病資料館サテライト写真展を開催します。ぜひ、足を運んでいただき、水俣の事例から、持続的な発展や真の豊かさについて考えてみてはいかがでしょうか。

（草郷孝好教授）

総合情報学部／総合情報学研究科

丹波デザイン・プロジェクト

今年度、総合情報学部では丹波市と連携し、農と食をテーマに同市のブランド価値を高めるデザインに挑んでいます。6月には丹波市内でのフィールドワークを実施。その後、何度も足を運び、調査を行ってきました。その成果は、11月末に行われる報告会で発表される予定です。

（学生主任　徳山美津恵教授）

社会安全学部／社会安全研究科

今年も専門演習発表会を開催

11月21日（水）に各ゼミ代表による専門演習発表会を開きます。社会安全学部では1・2年次ゼミでもプレゼン実習をしています。原稿に目を落とし、頼りなさげだった学生が、堂々と自信を持って発表している！ 学生の成長を感じられる一日です。

（西村弘教授）

専門職大学院トピックス

臨床心理専門職大学院

臨床心理専門職大学院で学んでほしいこと

この文章が掲載される頃には、臨床心理の国家資格である公認心理師の第1回試験が終わり、発表を待っているのでしょうか。文科省が主体になって臨床心理学の必要性を欧米並みに広めてきた民間資格の臨床心理士資格から、厚労省が主体になりつくった医療志向の強い国家資格へとシフトしていきます。自然科学よりも哲学が多くの幸せを人にもたらすことは新実在論の中では当然のことと考えられています。臨床心理学は科学的な心の治療のためにあるのではありません。当事者が望むように人の成長・発達を支援するためのものです。せめて若くて時間のある時こそ、分かりやすい合理的な人間理解の説明に終始するのではなく、自分について、人について、とことん深く悩んでほしいものです。

（石田陽彦教授）

併設校トピックス

関西大学高等部

東京フィールドワーク

高等部2年生の25人は7月30日から3日間、文部科学省指定SGH事業課題研究（プロジェクト学習）の一環で、東京学芸大学附属国際中等教育学校と「CSRとCSV 社会貢献と利益追求」をテーマにした交流を行いました。また、公文教育研究所をはじめとするグローバル企業や政府機関20社を訪問しインタビュー調査を行いました。今回のフィールドワークは生徒の課題研究の一助となるだけでなく、自身の将来や社会課題に対するものの見方、考え方を変える機会となっていたことが印象的でした。

（宮本裕美子）

Attention 大学からの重要なお知らせ

エクステンション・リードセンター開講講座一覧

今からでも申込可能な講座について下記のとおりお知らせします。講座を受講して効率よく学習しましょう！

講座・コース・クラス				推奨年次	ガイダンス★1	開講期間★2	受付開始日
会計職	公認会計士	入門	フル／財務会計論	1年次	11月1日(火)12:20～12:50	11月26日(月)～2019年3月29日(金)	申込受付中
	簿記検定	2級対策	フルBクラス	1・2年次	12月1日(火)12:20～12:45	2019年2月26日(火)～6月5日(水)	11月28日(水)
			直前対策Bクラス		12月14日(金)12:20～12:45	2019年4月26日(金)～6月5日(水)	
就職試験対策	SPI試験対策	実践	Aクラス（千里山）	3年次 M1		11月5日(月)～11月29日(木)	申込受付中
			Bクラス（千里山）			11月6日(火)～12月4日(火)	
			ミューズクラス			11月8日(木)～12月3日(月)	
			朝クラス			11月9日(金)～12月7日(金)	
		直前	千里山			2019年2月13日(水)～2月26日(火)	11月28日(水)

エクステンション・リードセンターホームページはこちらから

★1 講座の受講を考えている方や、資格について知りたい方のために、講座ガイダンスを実施しています。ガイダンスは、参加費無料、予約不要、途中参加・途中退室可能です。
★2 講座によって、講義日数、曜日、授業時間、定員数等が異なります。詳しくは「講座案内2018」でご確認ください。また、受講相談はエクステンション・リードセンターまでお問い合わせください。

KANDAI Topics

関大トピックス

「関大防災Day2018 ～広がれ！みんなの安全・安心！～」を実施

10月25日に千里山・高槻・高槻ミューズ・堺・北陽キャンパスで、「関大防災Day2018」を実施しました。関大防災Dayは、2010年から始まった関西大学独自の防災啓発行事で、今年で9回目を迎えました。

「地震避難訓練」では、授業中にマグニチュード7.6の「上町断層直下型地震」（震度6強以上）が発生したと想定し、学生・教職員の避難から誘導、安否確認に至るまでを本学オリジナルの「地震対応マニュアル」に基づき実施。学内の避難時に記入する「安否確認シート」と「緊急連絡メールシステム」を併用して安否確認を行いました。

その他、地域住民との協同による炊出し訓練をはじめ、水害時の浸水時ドア開閉体験や避難器具体験、千里山キャンパス備蓄倉庫見学ツアー、吹田市危機管理室の取り組みの紹介など、防災に関連したさまざまなイベントを開催しました。

今年は多くの自然災害が発生していますが、今後も起こりうる災害に備えて、学生・教職員をはじめ多くの地域住民が、「防災」に対する意識を高める機会となりました。

総合情報学部 創設25周年記念プレイベント特別講義を開催

高槻キャンパスで10月12日、総合情報学部創設25周年記念プレイベント特別講義「プレゼンテーションZen」を開催しました。同学部は、情報と人間・社会との関係について幅広い知識を培うとともに、情報技術を活用した問題解決を図ることのできる人材を育成すべく、1994年に創設。当日は、講師に迎えたプレゼンテーションの実施・指導の第一人者であるガー・レイノルズ氏が、人に伝わるデザインや話し方など、プレゼンテーション・スキル向上のために必要な、実践的な知識とテクニックについて解説しました。

第13回関西大学ビジネスプラン・コンペティション（KUBIC2018）本選会を開催

千里山キャンパスで10月6日、第13回関西大学ビジネスプラン・コンペティション（KUBIC2018）本選会を開催しました。KUBICは、2006年に関西大学商学部の創設100周年記念事業の一環としてスタート。"学生の力"をキャッチ・フレーズに、全国の大学生や高校生からさまざまなビジネスプランを募集し、若い学生の力を存分に発揮してもらうコンペティションです。全国から集まった1,448件の中から、第1次審査・第2次審査を行いました。この日行われた本選会では、プレゼンテーション形式での発表が行われ、最終審査の結果、大学・大学院・一般の部で本学商学部の学生が見事優勝を果たしました。

体育会野球部の多田桐吾さんが、関西学生野球連盟秋季リーグ戦で通算100安打を達成

9月22日にほっともっとフィールド神戸で行われた、平成30年度関西学生野球連盟秋季リーグ戦対近畿大学で、体育会野球部の多田桐吾さん（人4）がリーグ通算100安打を達成しました。関西学生野球連盟における100安打達成は、史上29人目の快挙です。100本目の安打はこの日の試合を決める本塁打となり、大記録に花を添えました。「素直にうれしい気持ちと、ほっとした気持ちがある。この日に100安打を達成する気持ちはなかったが、最高の結果となり良かった」と喜びを語りました。

体育会アイススケート部の宮原知子さんがUSインターナショナルクラシック2018で優勝

9月12日～16日に、アメリカ・ソルトレークシティーで行われたフィギュアスケートチャレンジシリーズUSインターナショナルクラシック2018で、体育会アイススケート部の宮原知子さん（文3）が優勝しました。ショートプログラムで67.53点、フリースケーティングで133.70点、トータルスコア201.23点をマーク。ショートプログラムでもフリースケーティングでも1位となり、今季初戦を最高の形で飾りました。シーズンも始まり、今後ますますの活躍に期待がかかります。

関大人 四方山話（よもやまばなし）◆「学園祭の後夜祭と飲酒」 商学部教授　笹倉淳史

40年ほど前の学生だった頃の学園祭を振り返ってみると、最初は一部の学部のみの学園祭で、他学部の友人の模擬店を手伝ったりしていました。4年次になって初めて統一学園祭となったことを記憶しています。最終日の後夜祭には、多くの学生が集まり、法文坂から下に向かって広がる、段々畑と呼ばれた階段状のスタンドにともされたろうそくの火の幻想的な風景を今でも鮮明に思い出します。その前夜にはスタンドの席の確保のために正門前には長い行列ができていました。後夜祭の後に打ち上げと称して、友人と飲みに行ったことを覚えています。

それから何年か経過し、今度は教員としての立場から学園祭にタッチすることになりました。後夜祭の後、酔いつぶれた学生がいないか学内をくまなく見回り、面倒を見てくれる友人や家族に引き渡すまで大学に最後まで残っていた記憶があります。それが今の最終日の飲酒の禁止の一因になっています。学園祭の期間だけでなく「飲酒は節度を持って」と願うばかりです。

編集後記

1年間広報委員として『関大通信』の企画・立案に携わる機会を得ました。どのような記事を書けば学生が読んでくれるだろうか。学生は何に関心があるのだろうか。など、学生の視点を意識していろいろと考える時間となりました。今回の特集は統一学園祭です。年に一度の最大のイベントに一人でも多くの学生が積極的に参加することを希望します。同時に、この学園祭特集号をきっかけに、一人でも多くの学生が『関大通信』に関心を持ってくれると担当者としては望外の喜びです。　（広報委員・経済学部教授　古賀款久）

関西大学通信 "KANDAI STYLE"
発行日:2018年10月31日
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121（大代表）

今月の表紙

第41回 関西大学統一学園祭
実行委員の皆さん

千里山キャンパス　KU シンフォニーホール前にて撮影